

資 料

尾 部 畸 形 の 鯉 の 一 例

(挿 圖 2 個)

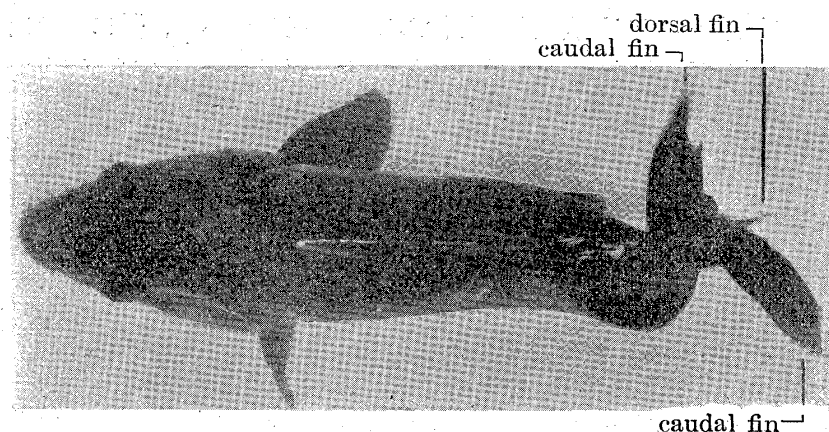
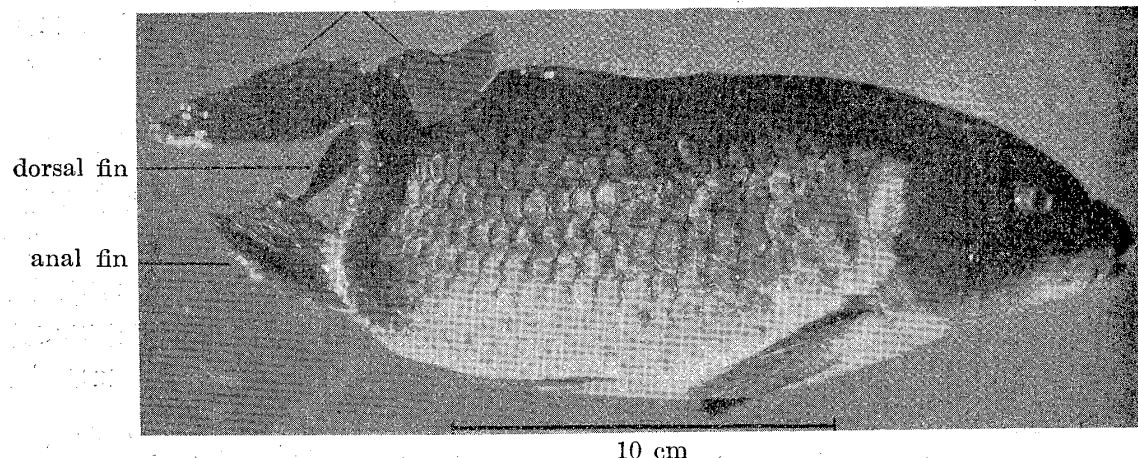
濱 井 生 三

東北帝國大學理學部生物學教室

(昭和11年6月26日受領)

宮城縣白石町の養鯉家新海忠作氏の養魚池で飼はれて居た尾部の著しく畸形を呈して居る4才の鯉を同氏の好意に依り貰ひ受けることが出来たのでその觀察のあらましを報告する。

尾部の畸形の爲かこの鯉は正常のものに比して非常に不活潑で、池に入れて竿でつゝいても僅かに運動するのみで遠く逃げることをしない。強ひて運動せしむれば毎秒約50cm位の速さで遊泳する。常に食餌をあさつてゐる處を見ると病的では無いと思はれる。その泳ぐ様



子は恰も金魚の如く、體の中央部を中心としてそれより前部及び後部を同時に同側に著しく屈曲して進行する。即ち頭の振り方が非常に大きい。その際畸形の尾部は體後部の運動に伴ふのみである。尾鰭は尾鰭としての用をなさないで寧ろ臀鰭がその代用となつてゐる様に見える。

畸形部は側線上第15—16鱗の部位より始まり、その附近より左に曲り第22鱗に於て最も左方に突出し、それより後部は殆ど直角に右上方に屈曲してゐる。體の最後端尾鰭の付け根の部位に至つて背側は右に、腹側は左に捩れ、尾鰭は金魚の尾鰭の如く左右に擴がつて殆ど完全に2部分に分たれてゐる。脊鰭は體の彎曲に従つて彎曲してゐるが後部は左に倒れて後方に伸びる。臀鰭は體の捩れの爲に體の最後端に位置する様になり眞直ぐに後方に伸びてゐる。鱗及び鰭は L. lat. 32, L. trans. 11, D. IV 21, A. III 6, P. I 15, V. I 8である。

次に2, 3の側定値を掲げる。(單位mm)

體長 (吻端より臀鰭まで)	體高	頭長	吻長	眼徑	尾鰭の長さ		臀鰭の長さ	胸鰭の長さ		腹鰭の長さ	
					背部	腹部		右	左	右	左
212	83	79	26	13	55	67	36	57	53	51	51

フナムシの幼生に於ける歩脚の増加に就て

(挿圖4個)

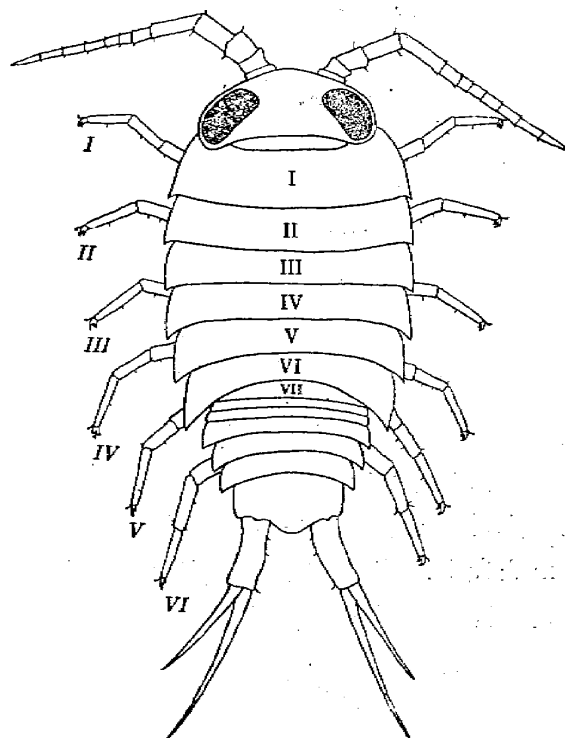
加藤光次郎

三井海洋生物學研究所

(昭和11年8月18日受領)

T. CUNLIFFE BARNES の論文 "Salt requirements and orientation of *Ligia* in Bermuda. III." (Biol. Bull., vol. 69, 1935) の中に *Ligia baudiniana* の幼生の簡単な側面圖が出てゐるが、夫には歩脚が6對しか描かれてゐない。日本産フナムシ *Ligia exotica* に就て之を確かめると矢張同様であつた。しからば、成體に見られる7對の歩脚の内、どの1對が如何なる時期に如何にして形成せられるのであらうか？

卵から孵化した幼生は暫く雌の孵卵囊内に抱かれてゐるが、充分成育すると此處から出る。此時期の幼生は體長約3mmで(頭部前端より尾節後縁まで)、形態上特に成體と異なるのは、第7胸節が著しく狭小で宛然胴部第1節の如き觀を呈し、この節に相當する歩脚を缺いてゐる點である。従つて幼生は6對の歩脚を有する譯である(第1圖)。第1回の脱皮



第1圖 脱皮前のフナムシ幼生 (×18)